

正 誤 表

「日本静脈経腸栄養学会静脈経腸栄養ハンドブック（第1刷～第3刷）」
 下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。





頁	該当箇所	誤	正
77	図 6	太字部分「1,500」が誤り 	太字部分「2,000」が正しい 
77	図 7	太字部分「2,000」が誤り 	太字部分「1,500」が正しい 
158	表 4	太字部分「20」が誤り	太字部分「120」が正しい

表4 エネルギー蓄積量 (kcal/day)

年齢 (歳)	男性	女性
0~5 (月)	20	20
6~8 (月)	15	15
9~11 (月)	15	15
1~2	20	15
3~5	10	10
6~7	15	20
8~9	25	25
10~11	35	30
12~14	20	25
15~17	10	10

[国立健康・栄養研究所監：厚生労働省策定日本人の食事摂取基準(2010年版), 第一出版, 東京, 2010より引用]

表4 エネルギー蓄積量 (kcal/day)

年齢 (歳)	男性	女性
0~5 (月)	120	120
6~8 (月)	15	15
9~11 (月)	15	15
1~2	20	15
3~5	10	10
6~7	15	20
8~9	25	25
10~11	35	30
12~14	20	25
15~17	10	10

[国立健康・栄養研究所監：厚生労働省策定日本人の食事摂取基準(2010年版), 第一出版, 東京, 2010より引用]

図2

計算式に誤り

太字部分「6.76」が正しい

例：70歳男性，身長165 cm，体重58 kg，ベッド以外での活動あり，胃癌に対する手術予定。

1. Harris-Benedict 式を用いた計算

エネルギー投与量 = BEE (H-B 式) × 活動係数 × 傷害係数

・ベッド以外での活動があるので，活動係数は1.3 (本来は日常生活の活動性をよく観察して設定すべきである)

・胃癌患者であるため，傷害係数は1.2と設定する (この傷害係数を1.1あるいは1.3と設定する場合もあるだろう。また，胃癌の進行状況も考慮すべきである。食事摂取量が減少して栄養障害に陥っていれば，代謝状態として低下していることも考慮すべきである。)

$$BEE = 66.47 + (13.75 \times 58) + (5.00 \times 165) - (6.76 \times 70)$$

$$= 66.47 + 797.5 + 825 - 473.2 = 1215.77$$

$$\text{エネルギー必要量} = 1215.77 \times 1.3 \times 1.2 = 1896.60 \text{ (kcal)}$$

① 傷害係数を1.1とすると

$$\text{エネルギー投与量} = 1215.77 \times 1.3 \times 1.1 = 1738.55 \text{ (kcal)}$$

② 傷害係数を1.3とすると

$$\text{エネルギー投与量} = 1215.77 \times 1.3 \times 1.3 = 2054.65 \text{ (kcal)}$$

2. 簡易式による計算

$$\text{エネルギー投与量} = \text{体重} \times 30 \text{ (kcal/kg/day)}$$

$$= 58 \times 30 = 1,740 \text{ (kcal/day)}$$

図2 総エネルギー投与量の計算方法の例

2013年4月11日
株式会社南江堂